

# 看護大通信

52



新潟県立看護大学

人間環境学領域・准教授  
藤田 尚

今回は、人類と感染症との闘いについてのお話です。地球の歴史四十六億年の中で人類の出現は六百万年前ぐらいで、これを一年に換算すると、

## 人類の歴史は感染症との闘い

感冒、インフルエンザ

人類の出現は、十二月三十一日の夕方、ということになります。地球の歴史がいかに長い

か、そして人類の歴史がいかに浅いものであるかが分かりますね。私たちの祖先は、独自の進化を遂げ、現在の我々のような高度な社会を創り上げ

ました。現在我々が迎えた高齢化をどう乗り切っていくか、は喫緊の課題です。しかし、待って下さい。人類の歴史上、初めからこんなに長寿が達成されていた訳ではありません。日本の縄文時代は、男女

とも平均寿命は十五歳未満だったと考えられています。室町時代でさえも、平均寿命は十五歳、江戸時代でやっと二十歳です。これは言うまでもなく乳幼児の死亡率が極端に高かった理由によります。現

在私は、東京都千代田区のお墓から出土した古人骨を調べていますが、何と全体の七割以上が子供の骨です。いかに子供の死亡率が高かったかを、改めて考えさせられます。そうした悲惨な現状を招いた疾病は何だったのでしょうか。答えは、各種の感染症です。

ザ、天然痘、麻疹、疫痢、赤痢、その他江戸時代には梅毒やハンセン氏病の人骨も出土しています。現在で

よって死亡したと考えられる人たちの骨には、ほとんど何の痕跡も残っていません。それは、感染してから短期間のうちに死亡してしまつたため、骨にその痕跡を残さなかつたのです。一方、同じ感染症でも梅毒やハンセン氏病などは、三年、五年ときとして十年以上もの長い期間その疾病を引きずるため、骨に病変を残すことになりました。一方、こうした短命社会では、ガンや脳血管障害、心疾患などの現代日本人の三大死亡原因で亡くなる人はまれで、ガンに侵された骨などもほとんど発見されていません。現代でも発展途上国の人々は、各種の感染症で命を落と

しています。二十一世紀のこの時代に、平均寿命が三十代、四十代なのです。「死」というと誰でも暗いイメージ

を抱きがちですが、我々はむしろ長寿の達成された、恵まれた社会に生きていると言えるのです。